

# 徳島文理大学香川薬学部の3年次生が 香川大学医学部で研究を開始しました

香川大学医学部教授  
徳田雅明

平成20年9月より、徳島文理大学の3名の3年次の学生さんが、私共の研究室に来て研究活動に参加しています。3人の研究内容について少し説明をします。骨の中では骨芽細胞による骨生成と破骨細胞による骨破壊によってリモデリングが絶えず行われています。その際、両者の機能的バランスが重要であり、その破綻は骨粗鬆症などの骨疾患の原因になります。我々は、培養細胞系を用いてD-プシコースやD-アロースをはじめとする希少糖の影響を解析し、新薬の開発を目指す取り組みを行っています。

## 学生さんの感想

◆丁寧に実験方法を教えて下さり、得られたデータから実験の改善点をアドバイスして下さったりと、細胞情報生理学講座での実験は毎日充実しています（N）。

◆初めは、何が何やらという状態でしたが、先生方の指導のおかげで大分実験にも慣れてきました。予想通りの結果が出た時はとても嬉しいです（Y）。

◆私は今、骨芽細胞について勉強しています。先生方に良いチャンスを与えていただいたので、たくさんの事を吸収していきたいです（A）。



指導担当教員と実験室で



培養室希少糖を使います。